

## 旭川市報道依頼

各報道機関 様

発表日	平成29年 9月 3日
発信課	社会教育部 科学館
担当者	向井 正幸
連絡先	電 話 0166-31-3186
	FAX 0166-31-3310
	E-mail m_mukai@city.asahikawa.lg.jp

分 類	イベント・行事 募集 契約・入札 会議・説明会 その他 (該当する分類を囲むこと。)
日 程	9月 17日 ~ 9月 17日
発表項目 (行事名)	講演会「ケナガマンモスゾウがやって来た！」
概 要 (趣旨・日時・ 場所・内容等を 記入すること。)	<p>旭川市科学館では、エントランスホールにおいて、8月29日(火)から9月21日(木)まで、旭川では初公開のケナガマンモスゾウの生態復元模型の展示を行っております。</p> <p>今回、この復元模型の製作に携わった島 誠さん：北広島市教育委員会学芸員と添田雄二さん：北海道博物館 学芸員(理学博士)による講演会を実施いたします。</p> <p>講演では、約4万5千年前に北広島市周辺でケナガマンモスゾウとナウマンゾウが最適な環境や植生でなくても生息できた可能性を示す世界で初めて明らかになった学術成果を発表する他、そのケナガマンモスゾウを郷土の理解を深めるため地元の小中学校10校に製作協力を依頼して772人延べ人数962人により作り上げた手作りのマンモスゾウ(奥行き5.5m程、高さ3.5m程)についてもお話を頂戴します。</p> <p>対象は小学生以上。特に午後2時半からの、ケナガマンモスゾウの前において学芸員による生解説は、より一層丁寧かつ分かりやすい言葉で聴講者に語りかけます。</p>
添付資料	<input checked="" type="radio"/> ・ 無 (有・無のいずれかを囲むこと。) ※ 広報用チラシとプレス用資料。2枚の配付を希望します。
報道(取材)に当たってのお願い	
備 考	

お聴き下さい！

# 講演会 “ケナガマンモスゾウ” がやって来た！

<講演日時>

日時：9月17日(日)

13:30～15:00

場所：旭川市科学館(宮前1-3)

サイエンスシアター及び エント

ランスホール (マンモス前)

その他：聴講及び観覧は無料

お申し込み：随時、旭川市科学館

0166-31-3186まで！



旭川では初公開のケナガマンモスゾウの生態復元模型です。

今回は、その復元模型の製作に携わった北広島市教育委員会 学芸員 畠 誠（はたまこと）さんと北海道博物館 学芸員（理学博士）添田雄二さんによる講演会を実施いたします。

これまで、マンモスゾウとナウマンゾウはそれぞれ、別々に暮らしていたと考えられていましたが、今から35年以上も前に北広島市周辺の音江別川流域で発見されたゾウの臼歯の化石を2013年に再検討した結果、北広島市周辺で北方系のケナガマンモスゾウと南方系のナウマンゾウが彼等が最も適しているとされる生息環境や植生でなくても、お互いが共存・生息できた可能性を示すことが世界で初めて明らかになりました。その生息年代を14Cの放射年代で調べたところ、それは今から約4万5千年前であることも判明しました。

今回の講演では、そのような学術成果を添田学芸員によって発表する他、そのケナガマンモスゾウがかつて郷土に生息していたことを子ども達に知ってもらい、郷土の理解を深めることを目的に地元の小中学校10校に製作協力を依頼し、全部で772人、延べ人数で962人によって作り上げた手作りのマンモスゾウ（奥行き5m程、高さ3m程）についても、畠学芸員が画像を交えてお話を頂戴します。

是非、この研究の成果と生態復元模型の展示を講演会とともに大勢の市民の方々にご覧になっていただき、私達旭川市民の地元に対する興味を抱く一助にできれば幸いと存じます。

<問合せ先>

旭川市教育委員会 社会教育部 科学館 学芸員 向井正幸

〒078-8391 旭川市宮前1条3丁目3番32号

Phone:0166-31-3186

# プレス用資料

## ■実物大ケナガマンモスゾウとは・・・

制作期間：2016年4月中旬～7月上旬

制作者：北広島市エコミュージアムセンター，北海道博物館

北広島市内全小学校（8校）：7校は4年生、1校は6年生

北広島市内中学校（2校）：1年生

33名（小学生30名、中学生2名、高校生1名）

道都大学：8名（協力依頼）

制作人数：772名（延べ962名）

復元模型：4万5千年前のケナガマンモスゾウの親子（北広島産）

<はじめに>

この事業は、2016年1月に北海道博物館からの協力依頼を受け、「平成28年度北海道博物館特別展開連・北広島市エコミュージアムセンター共催地域連携事業ー北広島マンモス大復活プロジェクト！」として実施したものです。

その内容は、北広島市から産出したケナガマンモスゾウを実物大で制作し、北海道博物館で7月9日から9月25日まで開催される特別展「ジオパークへ行こう！ー恐竜，アンモナイト，火山，地球の不思議を探る旅ー」に出展するというものでした。

北広島市は、日本で唯一古型のマンモスゾウとケナガマンモスゾウの化石が発見されているところです。このケナガマンモスゾウは、これまで古い時代のゾウ化石と考えられていましたが、2011年、北海道博物館をはじめ複数の研究機関が調査した結果、ケナガマンモスゾウであることが判明しました。2014年には、北海道博物館と北広島市エコミュージアムセンターが共同研究を行った結果、約4万5千年前に北広島市周辺でケナガマンモスゾウとナウマンゾウが共存していた可能性も明らかになりました。特にケナガマンモスゾウの化石に関しては、日本で最も新しい情報を持っていることから、これを広く子どもたちに伝える手段の一つとしてケナガマンモスゾウの父親（体長約5m×体高3m：45歳）と子（体長約2m×体高1.2m：3歳）の2体を制作することとしました。

制作に当たっては、北広島市エコミュージアムセンター学芸員の作業サポートとして道都大学生に協力を依頼し、さらに郷土をより理解できる機会と考え、市内の小学生から高校生までを対象に公募したプロジェクトチームと、また、より多くの子どもたちが制作に関わることができるよう、市内の小・中学校を巡回するかたちで制作を進めることとし、希望校に訪問して実施しました。

父親マンモスの制作は、プロジェクトチームの子どもたちが担当し、全10回制作活動を行い、このうち初回は北海道博物館で北広島のケナガマンモスゾウの勉強会を行い、2回目からはエコミュージアムセンターで制作を続けました。

子マンモスの制作は、小・中学校を訪問し実施しました。小学校は市内全小学校8校が参加し、各1回ずつリレーしながら作り上げました。中学校は2校が参加し、各1回ずつの制作で父親及び子どもに使用する体毛を制作しました。

全ての参加校では、1時間目に北海道博物館学芸員が北広島のケナガマンモスゾウについての話をし、2時間目に北広島市エコミュージアムセンター学芸員が、その日の作業内容を説明し制作に取り掛りました。

親・子ケナガマンモスゾウの制作に参加した子どもたちの人数は、プロジェクトチームの子どもたち41名、小学校495名、中学校236名で、合計772名が関わり、延べ962名で作り上げました。

子どもたちが関わる制作期間は、4月からの約3か月間でしたが、最後の仕上げは、北広島市エコミュージアムセンターと北海道博物館の各学芸員及び職員が行い、7月5日までに完成しました。完成した親子マンモスは、7月6日にトレーラーに載せて制作に関わった各学校等を回り披露した後、北海道博物館に運び入れました。

エコミュージアムセンター学芸員は、これまで北広島産の大型哺乳動物化石の骨格標本等を10体以上子どもたちと共に作り上げてきましたが、今回の実物大ケナガマンモスゾウの体は想像以上に大きく、削り作業や塗装、体毛の制作・貼り付けなど大変困難でした。また、運搬することを考えて組み立て式にしたことから、作業がとても難しく苦労しました。完成まで紆余曲折ありましたが、子どもたちにとっては郷土の理解につながる体験として深く記憶に残ったと思います。

今後も体験を取り入れた企画を通して子どもたちに郷土を知る機会を作っていきたいと考えています。

（以上、北広島マンモス大復活プロジェクト！より抜粋）